

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

トマトキバガによる被害の初確認について

県内で初めてトマトキバガによるトマトへの被害が確認されました。今後、本虫による被害が拡大するおそれがあるので、下記事項を参考にほ場での発生状況に十分注意し、防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. トマトキバガの発生状況

- 1) 国内では令和 3 年 10 月に熊本県で初確認された後、全国で発生が確認されている。
- 2) 本県では令和 4 年 11 月に県内の施設トマト隣接地に設置したフェロモントラップにおいて、トマトキバガ成虫が誘殺され、令和 4 年 12 月 9 日付け令和 4 年度病虫害発生予察特殊報第 4 号を発表した。その後も誘殺は続いていたが、県内において農作物での被害は認められていなかった。
- 3) 令和 7 年 7 月下旬、県内の雨除けトマト施設において県内 1 例目となる農作物への被害（葉及び果実の食害）が確認された（写真 1）。

2. 本虫の形態

成虫（写真 2）は、翅を閉じた静止時で体長 5～7mm（前翅長 5mm 弱、開張 10mm）。前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一律に淡黒褐色である。幼虫は、終齢で約 8mm に達する。体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する。

3. 本虫による被害

トマトの被害は、葉では内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。本虫の食害は面状であり、ハモグリバエ類の線状の食害と区別できる（写真 3）。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数 mm 程度の穿孔痕が生じるとともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。



写真1 トマトにおける幼虫による食害（左：葉、右：果実）

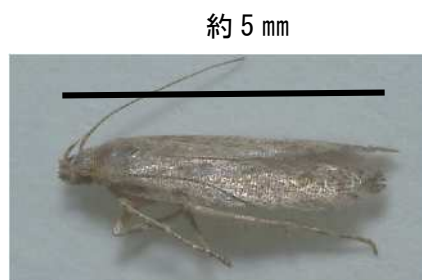


写真2 トマトキバガ成虫



ハモグリバエ類：線状の食害

トマトキバガ：面状の食害

写真3 トマトキバガとハモグリバエ類の食害の比較

4. 防除対策

- 1) 施設栽培のトマト及びミニトマトでは、開口部に防虫ネット（目合い1mm以下）を設置し、侵入を防止する。なお、ネット等の破れや、すき間からも侵入するため、定期的に点検して破れ等を補修する。
- 2) 多発すると被害が拡大するおそれがあることから、ほ場をよく見回り、被害の早期発見に努める。本虫の発生が疑われる場合、各地区の農業振興センターや JA または農業技術防除センターに連絡するとともに下記対策を行う。
- 3) ほ場内で本虫の発生が認められた場合には、発生を拡大させないため、速やかにトマトキバガに登録のある農薬を散布する（表 1）。薬剤防除に当たっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRAC コードが異なる薬剤をローテーションで使用する。
- 4) 被害葉及び被害果は速やかに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。被害残さを野外に放置すると周囲に拡散するため、土中深く埋却するか、ビニル袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたうえで、適切に処分する。
- 5) 施設栽培では、栽培終了時に作物を地際から切断して枯らし、施設を一定期間密閉して本虫を死滅させた上で、残さを適切に処分する。

表1 トマトキバガに登録のある農薬一覧（令和7年8月14日時点）

IRAC コード	農薬名 (商品名)	一般名	作物名 (登録の有無)		使用時期	希釈倍数 使用量	使用 方法	使用回数
			トマト	ミニ トマト				
5	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド ・スピノサド水和剤	○	○	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	○	○	収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布	合計2回以内
	ラディアントSC		○	○	収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布	
6	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	○	○	収穫前日まで	2000倍	散布	5回以内
	アグリメック	アバメクチン乳剤	○	×	収穫前日まで	500～ 1000倍	散布	3回以内
	アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	○	○	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
11A	エスマルクDF	BT水和剤※	○	○	発生初期 但し、収穫前 日まで	1000倍	散布	—
	サブリーナフロアブル		○	○		1000倍	散布	—
	ゼンターリ顆粒水和剤		○	○		1000倍	散布	—
	チューンアップ顆粒水和剤		○	○		2000倍	散布	—
13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	○	○	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	○	×	収穫前日まで	2000倍	散布	合計2回以内
	ファイントリムDF		○	×	収穫前日まで	2000倍	散布	
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	○	○	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
28	ブレバソソフロアブル5	クロラントラニリプロール	○	○	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
					育苗期後半 ～定植当日	100倍	灌注	1回
	ベネビア0D	シアントラニリプロール 水和剤	○	○	収穫前日まで	2000倍	散布	合計5回以内 (但し、定植時 までの処理及び 定植直後の株元 灌注は合計1回 以内、定植後の 散布は3回以内)
	ベリマークSC		○	○	育苗期後半 ～定植当日	400株当 たり25ml	灌注	
	ブリロッソ粒剤オメガ	シアントラニリプロール粒剤	○	○	育苗期後半 ～定植時	2g/株	株元 散布	
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	○	○	収穫前日まで	2000倍	散布	
	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤	○	○	収穫前日まで	2500倍	散布	3回以内
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	○	○	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	○	○	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内

※BT 水和剤は若齢幼虫期に有効なので、若齢幼虫期に時期を失せず散布すること。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病虫害総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QR コード



防除計画 QR コード

